



勝運の神

太郎坊・阿賀神社

(通称 太郎坊宮)

参拝の道しるべ

遠方から参拝するには名神高速道路八日市インターより。又国道8号線からは友定交差点より来られるのが便利です。(左地図)

太郎坊大神の鎮座する赤神山中腹の本殿に参拝するには二つの道があります。正面山麓から殆どまっすぐに七百四十段余りの石段を登り本殿に達するものと、正面山麓で右に通じているドライブウェイを通って参集殿下の駐車場に着く道です。この駐車場から石段を登って、参集殿を通り本殿に上る道を表参道、絵馬殿を通り抜けて少し迂廻しながら石段を登って本殿に上る道を裏参道と言います。なお、ドライブウェイは晴雨を論ぜず大型観光バスでも安全に運行出来、総石段の約三分の二の距離を車で上ることが出来ます。(下地図)

近年霊山赤神山のある箕作山一帯にハイキングコースが整備されており、土・日・祝日には多くのハイカーが当宮に参詣を兼ねて訪れています。



①本殿

夫婦岩を抜けた境内最上にあるご祭神の鎮座する建物で日々ご祈禱を齎している。

②夫婦岩

本殿の前に高く聳え立つ高さ数十mの2つの巨岩は昔から夫婦岩といわれている。又別名を「近江の高天原」とも唱えられ、その昔大神の神力を以て巨岩を左右に押し開きおつくりになったものと伝えられている。また、この間を通って参拝するものには、即座に病苦を除き諸願が成就されるが、悪心あるものは「岩にはさまれる」と言われ、巾約80cm高さ約12mのこの巨岩の間を通る時は心が引き締め、一種の尊い靈感を覚える全く神秘的な存在である。ライトアップ施設あり。

③一願成就社

裏参道の中程にある。参拝者自らが願かけ神事をするご殿で、特に病氣平癒・受験合格等の諸願成就を祈願する人が多く見受けられる。お百度道も整備されている。

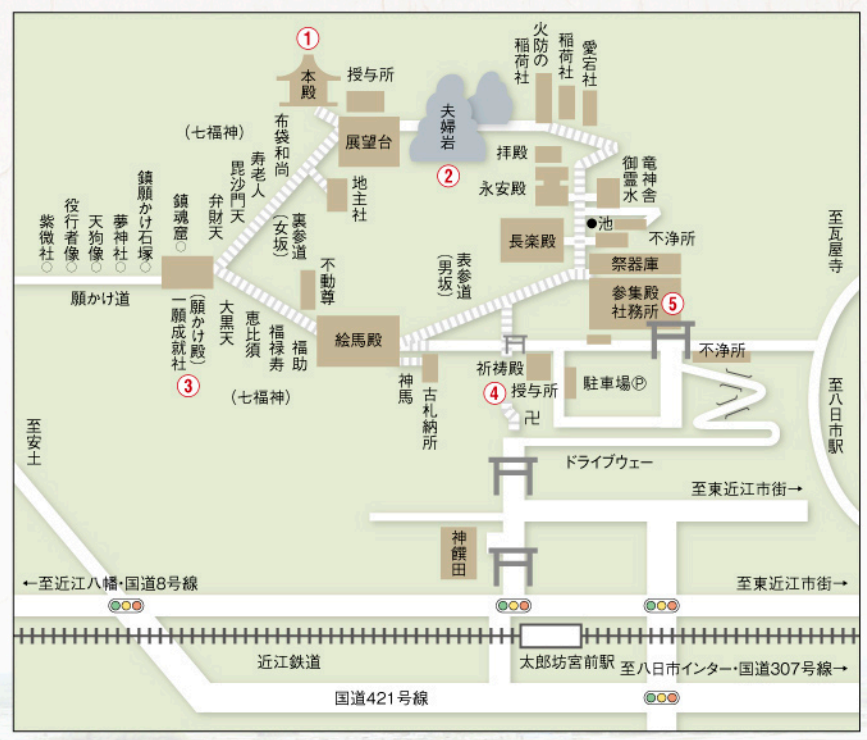
④祈禱殿・授与所

山上駐車場正面にあり、車のお祝いや本殿の登拝にご苦労な方がご祈禱を受けられる。(御札、御守等授与所)

⑤参集殿

湖東平野を一望する赤神山の中腹に研修道場としての参集殿がある。鉄骨コンクリート造り地下1階、地上3階建、神殿造りの粋を集めた全国でも有数の建物であり、団体のご祈禱・各種研修会や宴会・展示会にも利用されている。ライトアップ施設あり。

- 地下 / 社務所
- 1階 / 百畳敷大広間、ロビー、売店
- 2階 / 神殿(春興殿)、会議室、和室(4室)、控室(2室)
- 3階 / 客室



太郎坊宮社務所

〒527-8691 滋賀県東近江市小脇町2247 Tel(0748) 23-1341(代) Fax(0748) 25-0787

太郎坊宮 検索



(夫婦岩)

太郎坊・阿賀神社由緒記

【鎮座地】滋賀県東近江市小脇町2247番地

【御祭神】正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊(天照皇大神の第一皇子神即ち天孫瓊瓊杵尊の御父神にあらせられる)

【御神徳】勝運授福
神社本庁所属(別表神社)

の場として多くの参拝者を迎えるに至っている。
本殿前には、夫婦岩と称される高さ数十メートルの二つの巨岩がある。言い伝えでは大神の神力により、中約八センチ長さ十二メートルにわたり、真二つに押し開かれたとされている。「この岩の間を通過して参拝する者は、即座に病苦を除き諸願が成就するが、悪心ある者は岩に挟まれる。」ともいわれ、子供には「悪戯をしたり嘘をついたら岩に挟まれる」と教え、戒めのためにもなっている。

ご祭神は天照皇大神の第一皇子神であらせられる。最初に天降りの命を下された程の寵愛を受け、いつも脇に抱えて大切にされた子であるという事から、当地名が小脇と名付けられたと言われている。
ご神名から知られる様に、「吾れ勝ち負けの事が無い。なお勝つ事の速い事、日の昇るが如し。」で、殊に「勝運の神」として靈驗あらたかであり、男子屈強の莊嚴たる神を祀る現世利益・神験即現のお社である。



(授与品の一部です) その他「勝運石」など、各種お札・お守りもごさいます

授与品

当宮では、毎日社頭にて各種お守りを授与しております。ご必要の方は、ご送付も致しておりますので、TELまたはFAXにてお申し込み下さい。

当社は今から約千四百年前の創祀と伝えられている。鎮座地の赤神山(太郎坊山)は岩石が露出し、見るからに神秘的な神宿る霊山であると信じられてきた。天地万物を崇め、自然の恵みに感謝をする神道の教えの中で最も典型的なのがこの神体山信仰・磐境信仰であり、今も山上には奥ツ磐座、山麓には辺ツ磐座としての祭祀場が存在している。

らえている。一般に当社を太郎坊さんと称する様に、天狗は御祭神の守護神となっている。聖徳太子も当大神の靈験が顕著である事を聞き召し、国家の安泰と万人の幸福を祈願した。また伝教大師も当社に参籠し、赫灼としたご神徳に感銘し、五十有余の社坊を建立して守護された。さらにあまたの人々の信仰により、山肌次々と社殿が創建され、社頭も愈々充実してきたと思われる。こうして神道を基とした天台山嶽仏教と修験道が相交わる独特の信仰形態が確立され、庶民信仰

●主な年間行事

- 一月一日【歳旦祭】／一月(成人の日)【どんど祭】／二月三日【節分厄除大祭】(豆まき)
- 神事は二月第一日曜日／二月二十四日【祈年大祭】／三月二十四日【例大祭】／四月一日【春季敬神講社大祭】／四月第一土曜日【氏子渡御祭】／四月二十九日【昭和祭】／五月第三日曜日【お田植大祭】／六月三十日【永無月の大祓式】／七月二十四日【千日大祭】／八月一日【献茶祭】／仲秋の日【観月祭】／十一月一日【秋季敬神講社大祭】／十一月三日(文化の日)【二願成就社報恩祭】／十月最終土曜／十一月三十日【七五三祭】／十一月二十四日【新嘗大祭】／十二月第一日曜日【お火焚大祭】／十二月二十三日【天長祭】／十二月三十一日【師走の大祓式・除夜祭】／毎月二十三日【月次祭】／毎月二十八日【赤神山不動尊月次祭】
- ◎各種ご祈祷は毎日午前九時より午後五時(時間外は要TEL)

●初詣

当宮では毎年勝運授福のご利益を授かりに遠近地より三ヶ日で約十数万人の人々が初詣に訪れる。石段は人の列で埋まり、ご祈祷を受ける人達、また縁起物を手にしての人達等々一年間の安泰を祈る参詣者で、当宮ならではの賑わいを見せる。

●節分厄除大祭(二月三日)

期間中開運厄除のご祈祷を斎行。第一日曜日には正午より山上広場にて年男年女による福餅・福豆まきがあり、賑わいを見せる。



●例大祭(三月二十四日)

年間で最も重要な祭儀。国家の安泰と皇室の弥栄、氏子崇敬者の平安隆昌が祈願される。渡御祭は氏子により四月第一土・日曜日に賑々しく斎行される。

●お田植大祭(五月第三日曜日)



紀元二千六百年を記念して以後毎年山麓の神饌田にて五穀豊穣を祈念して斎行されている。お田植歌に合わせたの植女の姿のゆかしさは格別である。

●千日大祭(七月二十四日)

この祭りの起源は八百年程前とも言われ、この日に参拝すれば千日間の日参と同じご利益が得られるという大祭である。期間中は勝運隆昌のご祈祷や祈願ローソクの奉献、境内一円のご神灯が点火され神賑行事が執り行われる。

●お火焚大祭(十二月第一日曜日)

神道護摩としては全国有数の規模とされ、各地より奉納されたご神木が数十名の修験者により焚き上げられる。その火は天高く上り、諸願成就を祈る参拝者はご神煙を身に受け清浄な姿となって新しい年を迎えるという大祭である。山伏稚児も祭りを盛り上げ、山伏問答や火渡り神事も執り行われる。この祭儀は当宮の一年で最大、最終の大祭である。



太郎坊宮敬神講社

太郎坊大神様の広大無辺のご神徳をお慕い申し、その御心である勝運授福を願いとすの信仰の篤い人々により組織されています。本部は当宮内、県内外にはいくつもの支部があり、ご希望者はどなたでも入講していただけます。

講員の進納金によって下の3種としてあります

- 一、賛助講員 毎年 金1,000円以上年間祈祷料の進納者
 - 二、特別講員 毎年 金2,000円以上年間祈祷料の進納者
 - 三、名誉講員 毎年 金10,000円以上年間祈祷料の進納者
- 講員各位に対しては種々の特典があります。お申し込みは当宮まで。

